

## 福井県ふるさと文学館報

第8号

「あいさつ」

館長 柴野 康二

平成二七年に開館した当館も、おかげさまで七周年を迎え、県内外から多くの方々にお越しいただけるようになりました。今年度もコロナ禍は続きましたが、出来る限り充実した展示やイベントをお届けすることを目指し、日々の取り組みを続けてまいりました。

春には「新収藏品展」を開催し、新たにふるさと文学館に収蔵した貴重な資料の数々を紹介しました。夏の企画展「かこさとしの世界展」では、代表作の原画や下絵、故郷・武生の思い出を綴った自筆原稿などを紹介し、楽しく発見に満ちた展示となりました。また秋には「深田久弥没後五〇年記念展・山があるから」を開催し、深田の軌跡や作品を辿り山の文学の魅力をお伝えしました。企画展はいずれも来館者数一万五千人を超えました。支えていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

また、展示関連のイベントとして講演会や文学講座、文学カフェ等を開催すると同時に、自らが創る楽しみを味わっていただきたいという趣旨で、創作講座や文章講座、講師が直接学校に向向いて講義する出前講座を行いました。

特に秋に開催した、おしどり文学館協定記念朗読会「津田寛治『天狗争乱』を読む」は、大河ドラマで武田耕雲斎を演じた津田さんの情熱的な朗読が、参加者の心に残るイベントとなりました。これからも展示や講演会、創作講座などを通して、皆様が文学に親しむ機会を提供してまいります。引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 企画展

## 新収藏品展

会期 四月二四日(土)～六月二三日(日)

昨年度にご寄贈いただいた約三千点の資料の中から、郷土とゆかりの深い作家の貴重資料を展示しました。

三国に暮らした三好達治や、三好を師とあおいだ詩人・則武三雄、小浜市出身の詩人・児童文学者・山本和夫の他、越前市出身の書家・評論家の石川九楊氏と知っていたかどうかとも、ふるさとの文学に関する資料の散逸を防ぎ、貴重な文化遺産を後世に継承していく文学館の活動を紹介しました。



## かこさとしの世界展

くだるまちゃんもからすのパンやさんも大集合！

会期 七月一六日(金)～九月二〇日(月・祝)

夏季企画展として、越前市出身の絵本作家・かこさとしの作品と業績を紹介する展覧会を開催しました。

一九二六年、現在の越前市に生まれたかこさとしは、自然に恵まれた環境で幼少期を過ごし、戦争の過ちを繰り返さないよう、未来を担う子どもたちのために六百冊を超える絵本を描きました。展示では、「くだるまちゃん」シリーズや「からすのパンやさん」シリーズなど代表作の原画や下絵のほか、紙芝居「どろぼうがっ

こう」など、絵本作品のルーツとなった紙芝居作品の原画を紹介。また、鈴木まもる氏の絵による最後の作品『みずとはなんじゃ?』の下絵と原画も展示し、生涯をかけて創作を続けたかこさとしの多彩な作品世界を紹介しました。

また、福井とのつながりを紹介するコーナーでは、武生で過ごした幼少時代の遊びと思いの出をまとめた『遊びの四季』だるまちゃんのおい出』の自筆原稿を全国初公開。ふるさとの豊かな自然の中で遊んだ経験が、様々な作品を生み出す土台となったことを紹介しました。



### 深田久弥没後五〇年記念展「山があるから」

会期 一〇月三〇日(土)～一月二三日(日)

深田久弥の没後五〇年にあたり、なぜ、人は山に魅せられ、作品に描くのか、山をテーマにした展示を開催しました。深田は石川県加賀市に生まれ、白山を眺め育ちました。福井中学校(現・藤島高校)で青春時代を過ごした深田は、百名山の一つに福井県の荒島岳を選んでいます。本展では、深田の作品世界や実像に迫りました。

また、井上靖や新田次郎の山岳小説とそのモデルにもなった登山家・松濤明や加藤文太郎、エッセイや写真で山々の姿を表現し続ける増永迪男、石川直樹など、作家・登山家たちの貴重資料から山の文学の魅力を紹介しました。



## 特集展示

### ◆プロローグゾーン

#### ふるさとの花と文学

期間 三月二六日(金)～七月一四(水)

常神半島神子の山桜を訪ねた白洲正子『かくれ里』や、越前海岸の水仙を詠んだ短歌を収録した俵万智氏の『かぜのてのひら』など、福井の花をテーマにした文学作品を集め、展示しました。



### 伊藤柏翠生誕一一〇年記念展

期間 四月一七日(土)～七月一四(水)

高浜虚子の弟子として句作にはげみ、鎌倉で、三国出身の森田愛子と出会った後は福井に移り住んで、県内の文化活動の振興に貢献した伊藤柏翠の生涯を、直筆の資料や著作を通して紹介しました。

### 「2・43 清陰高校男子バレー部」アニメ原画展

期間 九月二三日(水)～一月二三日(火・祝)

福井県を舞台にした壁井ユカコ氏『2・43』シリーズは、男子バレーボールを描いた青春小説です。これを原作とし、二〇二一年一月に放送されたアニメの貴重な原画展を県交流文化部ブランド課と共催しました。

### ふくい雨もよう雪もよう

期間 一月二六日(金)～三月二三日(水)

年間を通して降水量が多く雪や雨が多い福井ならではの天気を描きこんでいる小説や随筆、詩歌を集めました。藤岡陽子氏の『おしよりん』や、水上勉『停車場有情』などを紹介しました。

### 宮城谷昌光 古代中国小説の軌跡

期間 一月二六日(金)～二月一六日(水)

古代中国を舞台とした歴史小説の分野を切り拓いた宮城谷昌光氏の作品を彩る挿絵原画や、文学賞受賞の記念品など、宮城谷氏よりご贈りいただいた貴重な資料を展示しました。また作品の魅力や白川静博士とのつながりを紹介しました。

### 全国文学館協議会協同展示「三・二文学館からのメッセージ」大地と海がゆれるとき ―福井ゆかりの作家と地震―

期間 二月一八日(金)～四月一〇日(日)

福井地震や東日本大震災などを経験した福井ゆかりの作家たちが、震災について綴った文学を紹介しました。多田裕計『小説芭蕉』や津村節子氏『三陸の海』などを展示しました。

### へタイムリースポット

#### 加古里子没後三年 「加古里子とこどもたち」

期間 四月一七日(土)～七月一四日(水)

「こどもの日」にちなみ、『どこちゃんはどこ』『だるまちゃんとかみなりちゃん』など、こどもたちを個性豊かに描いている絵本やその複製原画を紹介しました。

### 祝 俵万智氏迢空賞受賞

期間 五月二八日(金)～七月一四(水)

俵万智氏の第六歌集『未来のサイズ』が、短歌界で最も権威ある賞といわれる迢空賞に輝きました。これを記念して俵氏の著作や自筆資料を紹介しました。

### おしどり文学館協定 福井県・荒川区合同展示 「吉村昭と天狗党」

期間 一月一日(金)～二月二日(水)

文壇のおしどり夫婦と呼ばれた津村節子・吉村昭両氏にちなみ、当館と吉村昭記念文学館との間で締結した「おしどり文学館協定」の四周年を記念した展示です。吉村昭と、敦賀で非業の最期を遂げた天狗党とのかかわりを紹介しました。

### ようこそ文学館へ！

期間 二月二四日(金)～三月三日(水)

二〇二一年に来館した作家・アーティストのうち、俳優の津田寛治氏やライトノベル作家の裕夢氏、写真家の石川直樹氏ら八人の色紙や写真、著作などを紹介し、ふるさと文学館の一年を振り返りました。

### ◆ギャラリー・文学の小路

#### 伊藤柏翠俳句記念館所蔵写真展

期間 四月二四日(土)～七月一四日(水)

伊藤柏翠生誕一一〇年記念展の関連企画として、柏翠をはじめ森田愛子、高浜虚子などゆかりの人物の写真を紹介しました。



青森県近代文学館連携

「生誕百年記念特別展太宰治」パネル展

期間 一〇月二九日(金)～二月二二日(水)

太宰治の故郷青森で二〇〇九年に開催された「生誕百年記念展」のパネルを紹介しました。

青森県近代文学館連携

「青函を旅した文人たち」パネル展

期間 一月二八日(金)～三月二三日(水)

青森と函館、両地を旅した文人たちの足跡をパネルで紹介しました。

文学の小路を作品発表の場にどうぞ！

展示室周辺のスペース「ギャラリィ・文学の小路」では、文学に関する作品(詩・短歌、俳句など)を展示しています。学校の授業や部活動・県内文学関係グループの文学に関する作品発表の場としてご利用ください。

第八八回福井県小中学生写生画コンクール入賞作品展

期間 七月一六日(金)～七月二一日(水)

福井県内小中学校の図画工作・美術教育の充実・向上を目的とした「県小中学生写生画コンクール」で入賞を果たした作品を紹介しました。

令和三年度

県高等学校書道展「特選」作品展示

期間 一〇月一日(金)～一〇月二七日(水)

福井県内高等学校および特別支援学校の書道部



生徒の特選作品を紹介しました。

家族ふれあい絵手紙コンクール

期間 二月三日(金)～二月二二日(日)

福井市が主催する「家族のふれあい」をテーマにした絵手紙コンクールの入賞作品を紹介しました。

「比那ヶ岳俳句会」作品展

期間 一月六日(木)～二月二六日(水)

越前市を中心に活躍する俳句グループの作品展を開催し、新年を詠んだ俳句を紹介しました。

◆福井県ふるさとの日記念展

「若狭人」山本和夫とその文学と芸術の世界」

期間 一月二八日(金)～二月二七日(日)

二月七日の福井県ふるさとの日にあわせ、小浜市出身の詩人・児童文学者の山本和夫を紹介する展示を若狭図書館学習センターを会場として、共催しました。

教育普及活動

○文学フェスタ

一月、県内で文芸創作を行う方々が作品を発表したり、作り手や読者が交流する場として、文学のお祭り「文学フェスタ」を開催しました。図書館エントランスホールには、昨年引き続きコロナ禍のなか、文学同人や高校の文芸部など九団体がブースを開設し、同人誌の配布や活動紹介を行いました。各団体のみなさ



んは、感染防止対策を講じながら、作品を一般の方に見ていただく貴重な機会と捉えるとともに、他の団体の方との暖かな交流も見られました。

また、おしどり文学館協定記念朗読会「津田寛治『天狗争乱』を読む」を開催し、東京都荒川区の吉村昭記念文学館でも、ユーチューブによるライブ配信でご覧いただきました。大河ドラマ「青天を衝け」で武田耕齋を演じた俳優津田寛治氏の語り、ふくだなるみ氏演奏のマリンバの音色とともに臨場感を醸し出し、参加者は天狗勢の苦難の情景に引き込まれました。「創作講座・小説」では、本宮ことは氏が、読者を引き込む様々なヒントを話され、参加者は小説を書くこととする意欲を刺激されたようです。このほか、福井の文学出版物の展示や、ふるさと文学難問クイズを行いました。カフェあすわの木では、秋季企画展深田久弥没後五〇年記念展にまつわる特別メニューを楽しんでいただきました。制限

があるなかでも、文学に親しむ充実した一日になりました。

## 作家講演会

一二月に、深田久弥没後五〇年記念展「山があるから」の関連イベントとして、写真家で登山家の石川直樹氏を講師に迎え、講演会「地球を旅する」を開催しました。

石川氏は、まず「旅の始まりはすべて本だった」と語り、影響を受けた本として、植村直己や星野道夫などの本をあげられました。また、旅を続けていくための職業として、写真家という今の仕事を選び、写真を撮るために山に登っているとも話されました。眺める時や場所での表情を変える山、石川氏はその瞬間瞬間を撮影していると説明され、ヒマラヤでの写真や映像を紹介くださいました。



二月には、絵本作家・鈴木まもる氏の講演会をリモートで開催し、絵本制作のエピソードや作品に込めた思い、ライフワークとしている「鳥の巣研究」について語っていただきました。

## オーサートーク作家による出前授業

二月に武生東高校、高志高校において、作家・赤神諒氏をお招きし、「オーサートーク作家による出前授業」を開催しました。赤神氏はまず生徒からのアンケートに答える形で、作品完成までの過程と要する時間、原稿料や出版業界の状況までわかりやすく説明されました。続いてご自身の作品に関するエピソードを読者の感想とともに紹介され、弁護士と大学教授を兼務する中でどのような経緯で作家となり、現在どのような点に留意して執筆しているのかについて話されました。そして、文芸による町おこしの可能性や、発想力を鍛えるヒント、二つの仕事を兼ねる二刀流の勧めについても触れられ、生徒たちは、勉強や将来のことについて多くのヒントをもらいました。

## ジュニア文学カフェ

六月に、俳人の中内亮玄氏を講師に、ジュニア文学カフェ「現代俳句入門」を開催しました。講義では参加した高校生が投げ出した俳句を取り上げ、句に込められた生徒の思いに共感しつつ、それぞれの改善点を解説しました。その中で、俳句にとって大切なものは韻律で、それは声に出して読むことで確認できること、わずかな表記の違いが句の印象を変えること、良い句の題材は日頃からよく物事を観察し、切り取り方を考える中から生まれることなど



をわかりやすく説明しました。

## 文学講座

六月に、俳人の山岸世詩明氏を講師に、伊藤柏翠生誕一〇〇年記念文学講座「天性の俳人伊藤柏翠と、愛子の生涯」を開催しました。講義では柏翠について、彼の複雑な生い立ちや俳句との出会い、入所していた結核療養所での俳句指導の様子などを当時の句を引用しながら話されました。そして柏翠の言葉「花鳥巡礼」とは、全国を巡礼して山川草木、鳥獣虫魚を詠むことだと解説されました。続けて森田愛子を紹介し、柏翠との劇的な出会いと俳句への目覚め、柏翠の師・虚子と交流するに至った経緯などを語りました。

七月には夏季企画展・かこさとしの世界展の関連イベント「子ども大人もあつまれーかみしばい口演会」を開催し、「越前らくひょうしぎの会」の方々が出演されました。口演する紙芝居は五作品で、歌や問いかけ、そして深いメッセージ性が含まれたものなどバラエティに富んだ内容でした。どの作品も、絵の色合いや構成がすばらしく、離れた客席からでも見る者を惹きつけました。

九月には、かこさとしの長女・鈴木万里氏によるリモート講演会を開催しました。「だるまちゃん」とてんぐちゃんや『からすのパンやさん』などの代表作が生まれた背景、作中で描かれた物や登場人物に込めたかこさとしの想いを詳細に解説いただきました。後半は幼少期の福井での暮らしがどのように作品と関連しているかを話され、会場からの質問にも丁寧に答えていただきました。

一〇月には、深田久弥没後五〇年記念展「山があるから」の関



連イベントとして、山岳エッセイストで登山家の増永迪男氏を講師に、文学講座「文学に選ばれた山ーふるさと」の山を含めて」を開催しました。増永氏は深田久弥について、日本で近代登山が始まり、初登頂が競われた時代の一つ下の世代にいと位置づけました。そして深田がこれまでその土地の人にだけ親しまれてきた地域の名山を巡礼のように登り始め、『日本百名山』が生まれたと説明されました。また、深田と同世代の登山家・松濤明や加藤文太郎についても解説され、彼らの死の状況を、槍ヶ岳の図を交えて状況を説明されました。最後に、ご自身の登山経験や作品について登山の専門用語の解説を交えつつ紹介され、特に荒島岳の冬季の氷壁登攀については、臨場感いっぱいにお話しいただきました。

一二月には、福井県立大学教授の木村小夜氏を講師に、「文学講座・（手紙）から読む太宰治」を開催しました。木村氏はまず、特定の相手との対話性を不可欠とする手紙の本質を押さえたうえで、敢えて変則的に小説の中に取り入れることでその本質を浮き彫りにした太宰の手法を、作品名とともに紹介しました。そして「燈籠」、「誰」、「散華」などの作品を引用し、太宰が手紙を小説の中でどう駆使したのかについて具体例を挙げて解説されました。

一月には佛敎大学教授の堀大介氏が「泰澄和尚と山の信仰」と題して講演し、白山を開山したとされ、泉鏡花の戯曲「夜叉ヶ池」にもその名が登場する泰澄和尚について、数々の伝説や福井の山との関わりなどを紹介しました。



## ふくい文学ゼミ

作家養成講座「ふくい文学ゼミ」は七期目を開講し、一三名が受講しました。新潮社の編集者の上田恭弘氏から、小説執筆の心

構えや登場人物の設定、ストーリーの作り方など、一年を通じたプログラムにより小説執筆のコツを学びました。また、毎回行う提出作品の合評では仲間との切磋琢磨により実践力を磨きました。特別講座では、現役作家から創作に関する具体的なアドバイスをいただきました。

### 出前文芸創作教室

詩や短歌、俳句で活躍されている方が学校に向いて創作のノウハウを教える出前教室を開催しました。七月に大安寺中学校と高志中学校で俳句、成和中学校で詩、一月に武生第三中学校で書の授業を行いました。詩の教室では、福井県詩人懇話会の皆さんに言葉の組合せ方や比喩表現についてアドバイスし、詩作の楽しさを伝えていただきました。また書の教室では、書家の石川九楊氏が、仮名を読んだり実際に墨で書いたりする経験をさせながら、言葉の持つ表現の豊かさを紹介されました。

### 創作講座

文学への関心と創作意欲を高めるため、文章講座を三回、脚本の講座を一回開催しました。文章講座は、風花随筆文学賞実行委員会との共催により、県内在住の作家、大学の講師、新潮社の編集者を講師に迎え、エッセイを書くポイントを解説していただきました。また脚本の講座では、劇作家の鈴江俊郎氏が脚本創作の基礎について、「せりふ」の作り方を中心にわかりやすく説明いただきました。



## 令和3年度に開催したイベント一覧

期 日	イベント名	場 所	期 日	イベント名	場 所
6/5(土)	ジュニア文学カフェ (中内亮玄氏)	多目的ホール	11/7(日)	「創作講座・小説」(本宮ことは氏)	多目的ホール
6/13(日)	文学講座 (山岸世詩明氏)	多目的ホール		「朗読会『津田寛治、天狗争乱を読む』 (津田寛治氏)」	多目的ホール
7/3(日)	第1回ふくい文学ゼミ <b>リモート</b>	多目的ホール		「同人誌ブース」	エントランスホール
				「ふるさと文学難問クイズ」	文学館カウンター
7/13(火)	出前文芸創作教室 (俳句: 西村圭子氏)	多目的ホール	11/30(火)	出前文芸創作教室 (石川九楊氏)	武生第三中学校
7/15(木)	出前文芸創作教室 (詩: 福井県詩人懇話会)	多目的ホール	12/4(土)	文学講座 (木村小夜氏)	多目的ホール
7/17(土)	かみしばい口演会 (らくひょうしぎの会)	多目的ホール	12/10(金)	オーサートーク (赤神諒氏)	武生東高校 高志高校
7/18(日)	第1回文章講座 (張籠二三枝氏)	多目的ホール	12/11(土)	講演会 (石川直樹氏)	多目的ホール
7/29(木)	出前文芸創作教室 (俳句: 中内亮玄氏)	多目的ホール	12/16(木)	文学講座 (増永迪男氏)	多目的ホール
8/9(月)	キッズキネマ「月とあざらし」	多目的ホール	12/18(土)	大宰文学キネマ「真白き富士の嶺」	多目的ホール
8/29(日)	第2回ふくい文学ゼミ <b>リモート</b>	研修室	1/8(土)	山の文学キネマ「氷壁」	多目的ホール
9/4(土)	第2回文章講座 (福田修氏)	多目的ホール	1/9(日)	文学講座 (堀大介氏)	多目的ホール
9/5(日)	文学講座 (鈴木万里氏) <b>リモート</b>	多目的ホール	1/16(日)	山の文学キネマ「滝を見に行く」	多目的ホール
9/20(月)	キッズキネマ「大造じいさんとガン」	研修室	1/22(土)	創作講座・脚本 (鈴江俊郎氏) <b>リモート</b>	多目的ホール
10/24(日)	第3回文章講座 (森重良太氏)	多目的ホール	1/23(日)	第4回ふくい文学ゼミ	多目的ホール
10/30(土)	文学講座 (増永迪男氏)	多目的ホール	2/19(土)	第5回ふくい文学ゼミ	多目的ホール
10/31(日)	第3回ふくい文学ゼミ	研修室	2/26(土)	講演会 (鈴木まもる氏) <b>リモート</b>	多目的ホール・自宅

# 資料寄贈のお願い

当館では、福井の文学に関する資料を収集・保存し、次の世代に継承するとともに展示・研究などで活用してまいります。福井ゆかりの作家や作品に関する資料（自筆原稿、書簡、書画、挿絵、愛用品、写真、映像等）がございましたら、文学館まで寄贈くださいますようお願いいたします。

## 【寄贈受贈】

令和三年度に寄贈いただいた方を紹介します。

石川九楊氏、黒川深雪氏、鈴木万里氏、廣部恭子氏、増永迪男氏、山口明美氏、山本祐夫氏  
(五十音順)

# トピックス

## ◆高見順資料の画像を公開しました。

八月二七日、高見順の命日に、当館所蔵の資料のうち六七点の画像を「デジタルアーカイブ福井」（福井県立図書館・文書館・文学館が管理する協同検索データベース）で公開しました。

これにちなみホームページにおいて、デジタル文学館「直筆資料で読む高見順の作品」を開始しています。『敗戦日記』の見返しに掲載された地図トレースや「詩十篇」などの原稿をご覧ください。

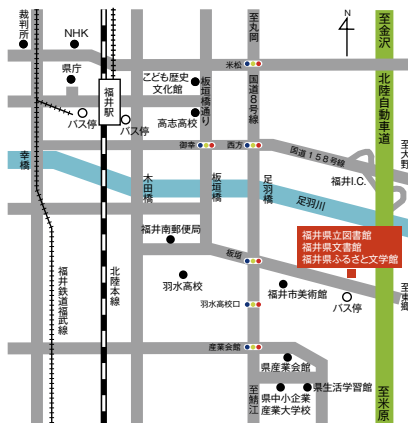
## ◆福井県立図書館・文書館・ふるさと文学館は、「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2022」優秀賞を受賞しました。

先進的な活動を行っている図書館等に授与するもので、NPO法人「知的資源イニシアティブ」が主催しています。今後も三館が連携し、より一層充実した活動を行ってまいります。

# 編集後記

ふるさと文学館報第八号をお読みいただきありがとうございます。コロナ禍が続く中、多くの方々のご支援を賜り、今年も様々な展示やイベントを開催することができました。改めて深く感謝申し上げます。

これからも文学の魅力を発信し続ける為、時代に即した新しい試みが続いていく所存です。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



観覧料…無料  
 休館日…毎週月曜日(休日の場合は翌日)、  
 祝日の翌日(翌日が土日の場合は除く)、年末年始  
 資料点検期間(第四木曜日(月)によって変更あり)  
 開館時間…平日 九時～一九時  
 土日祝 九時～一八時

ふるさと文学館へはフレンドリーバス(無料)が便利です。  
 福井駅東口バスターミナルから30分間隔で運行(約15分)

## 福井県ふるさと文学館報 第8号

発行日 令和 4年3月31日

創刊日 平成27年3月31日

発行所 福井県ふるさと文学館

福井市下馬町51-11(福井県立図書館内)

TEL:0776-33-8866

FAX:0776-33-8861

https://www.library-archives.pref.fukui.jp/(55030)

